

雪形観察のすすめ

●
山田 高嗣

(国際雪形研究会・札幌第一高等学校)

^{ゆきがた}
雪形って知っていますか？

春から夏にかけての雪融けの時期に、山の斜面に現れる様々な残雪模様を「雪形（ゆきがた）」と言います。これは、昔から農事暦として農作業の開始や豊凶を知る目安として利用されてきました。しかし、近年の農業技術の進歩や気象観測の充実などにより農事暦としての意味はなくなり、わずかの有名な雪形を除いて、ほとんどの雪形は忘れられようとしています。雪形は外国にもわずかに存在することが国際雪形研究会の調査で明らかになってきましたが、雪形は日本特有の文化の可能性がります。その意味で、雪形は世界に誇る日本の文化遺産といえるかもしれません。

例えば、写真1を見てください。何か動物が見えませんか？

これは、新潟県の妙高山に現れる「はね馬」という雪形です。この形が現れると麓では田植えを始めたという言い伝えがります。

写真2は、北海道のワイスホルンに現れる「白い馬」です。5月中旬に倶知安町より西方を眺めると見ることができます。

写真1や写真2のように、同じ馬の形でも、雪が残った白い部分と山の斜面の地肌が現れた黒い



写真1 雪形「はね馬」

写真中央の位置に黒い形で左方向にはねている馬が見えます。



写真2 雪形「白い馬」

写真中央の左に白い形で右向きに横たわっている馬が見えます。

部分のどちらに注目するかで見えてくる雪形が違います。白い部分の形を見る場合を「ポジ型」、黒い部分の形を見る場合を「ネガ型」と呼び、区別しています。

写真1の雪形のように昔からの言い伝えがある雪形を伝承的な雪形と呼ぶのに対し、言い伝えとは関係なく新しく見つけた雪形をニュー雪形と呼んでいます。何でもない残雪模様を見ていると、あるとき何かの形に見えてきます。そして、その

形に名前（ニックネーム）をつけて楽しんでみましょう。できれば、家族や友達とおしゃべりしながら見ると、さらに楽しめると思います。

田淵行男氏の調査(山の紋章 雪形, 1981, 学習研究社)によると全国には約300の雪形があると言われていますが、現在、形や出現時期などがわかっているものは半数程度しかありません。国際雪形研究会の調査により北海道で確認された雪形情報を図1に示します。

田淵行男氏の調査から約30年経った現在、北海道では13個の雪形が確認されていますが、まだまだどこかに埋もれてしまっている雪形があるかもしれません。貴重な文化遺産を保存していくためにも、雪形情報の発掘が急務となっています。こうした雪形情報を発信・収集する活動の一環として国際雪形研究会では、毎年全国各地で観察会を企画したり、ホームページ(<http://www.yukihaku.net/yukigata/>)を開設したりしています。埋もれてしまった雪形情報の情報提供はもちろん、ニュー雪形も積極的に見つけてもらいたいと思います。そして、雪形の観察という新たな視点で北海道の自然を見つめ直してください。

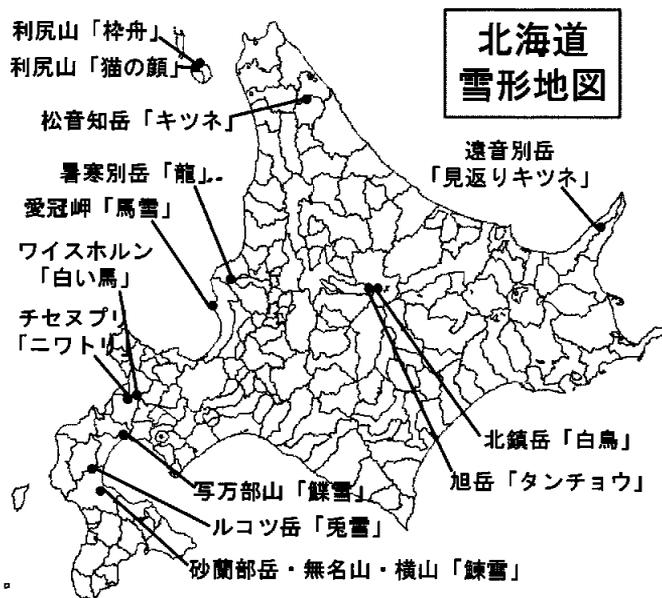


図1 北海道の雪形地図